

# 女の新聞

クロワッサン  
10日・25日の  
月2回発行

## 介護 284

# 墓参りから海外旅行まで、要介助の外出を安全、快適に支えるプロ集団。篠塚恭一さん

オーストラリアの海へ。砂浜や参道の砂利道での操作のコツは車輪の、やや浮かせ。「実践講座で体験してもらおうが一番」



本人の心を支え、日本の文化を継承する上でも欠かせない墓参り。段差攻略のスキルと周囲の手を上手に借りるノウハウが必要。

65歳以上の人が老後にしたいこと  
1位は男女とも「旅行」（朝日新聞社調査）となつて久しい。'05年以降、海外旅行者の半数以上は40歳以上だそう（法務省資料に基づく国交省の集計）。

そんな旅好き、お出かけ好き世代が、「ひとたび要介助になると旅はおろか墓参りや里帰り、日常の外出さえままならなくなるのが現実です」というのはNPO法人「日本トラベルヘルパー協会」の理事長、篠塚恭一さんだ。長年、ツアーコンダクターとして活躍してきた篠塚さんは、真面目に働いて定年後の旅を楽しみにしてきた人々が、要介助になつた途端「外に出る」手だ

てを失い、楽しみも生きがいも縮ませてしまふ様子を目の当たりにしてきた。理由は明白だ。車椅子で一歩出れば街はバリアだらけ。介助サービスは質量ともに不十分。運よくボランティアなどの人手に恵まれても、「気がね」から外出をためらう人も少なくない。

篠塚さんの結論は、介護と旅・外出支援の技術にホスピタリティ（おもてなしの心）を備えたプロのヘルパー、すなわちトラベルヘルパーを育て、必要とする人が必要な時に気がねなく利用できるようなシステムを作ることだった。立ち上げた会社で、'95年からトラベルヘルパーの育成・派遣の仕事を開始

'06年にトラベルヘルパーの技術や知識を一般の人も学べるNPOを組織し、'09年には資格認定制度を導入。現在、約650人がトラベルヘルパーとして登録。有資格者は約1000人にのぼる。楽々、介助する姿こそ、プロ。

トラベルヘルパーの仕事は「屋根のない場での介護」だと篠塚さん。

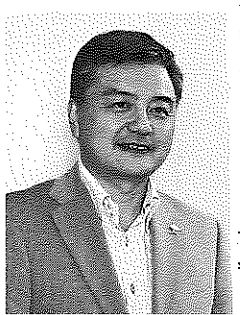
「家や施設など安定した環境で行われる介護と違い、私たちの使命は刻々と変わる環境や条件の下で安心・安全の支援を担保し続けること。最善策を見極め、行動する力とともにお客様（利用者）の心に負担をかけず、楽しいと感じてもらえる空間を作るマインドが必要です」。だからこそ、ボランティアではなく、プロの育成にこだわった。

「プロの責任と矜持を持つてこそ、お客様のニーズに沿った質の高いサービスを安定して提供できます。利用する側も、サービスに見合う対価を支払うことで「消費者の権利」を確保できる。プロとしての技術や経験はたとえばこんなシーンで生かされる。

「人の多い道、駅での複雑な乗り換え、砂利や砂の道、段差や傾斜の厳しい道、トイレ介助など。介助される人の安全性や快適度は、介助する人の技術や経験、気持ちの持ちようでもまったく変わってきます」

人こみで車いすを介助するコツは、

**刻々と変わる条件下で安心・安全を担保しお客様（＝介助される人）に負担をかけず、楽しいと感じてもらえる空間を作ります。**



篠塚さんは61年 千葉県生まれ。介助付きの旅に必要な交通手段、宿、医療機関などを事前にコーディネートする会社も運営。www.krahehelp.jp

すぐ前に行く人との距離を保ち、周囲1mをウオッチしながら進むこと。必要に応じて周囲の人に「通ります」と声掛けをし、車いすの存在をさりげなくアピールすることも。案内配慮されにくいのが、「すみません」など謝罪のことは使いたくないことも大切。「車いすで通行することをお客様自身に申し訳なく感じさせるから」楽々している。利用する人にそう感じてほしい、外出そのものを楽しんでもらうのがプロの腕の見せどころ。「終了時に『ありがとう』だけではなく、『次もお願ひ』と言われた時に、いい仕事ができたと感じられます」楽な仕事ではないが、旅や外出を諦めていた人々が見せる笑顔や涙、喜びや安堵の表情はそのままトラベルヘルパーの喜びや力になってくれるという。利用者の要介護度を問わず、墓参りから海外旅行まで幅広い相談に応じてくれるほか、外出支援を学びたい人には1日講座などの機会も設けている。

### 介護が必要な人との外出があると便利なもの

- 水(水筒またはペットボトル)  
暑い時期はもちろん、寒い時期も。車中や室内はエアコンで乾燥しがち。こまめな水分補給は必須。
- 上着と着替え  
ショールのようなものは脱げにも使えて重宝。排泄の失敗にそなえてズボンなどの着替えも。
- ウエットティッシュ  
トイレの始末、手拭き、食卓の前後、リフレッシュなど、なんにでも使えて便利。
- 手袋(ポリエチレンやゴム製)  
使い切りタイプのもの。介助者が雑菌などを媒介することのないよう、汚れを防ぐために使う。
- 靴下2足  
車いすは、足元が悪いのほか冷えやすい。足元の冷え対策に余分に用意すると助かる場合が多い。
- おむつパッド  
排泄に失敗しやすい人やその不安がある時は、本人の安心のためにも複数枚を用意しておく。

出典：『介護旅行にでかけませんか』（篠塚恭一著、講談社）より抜粋